

2019年 春学期

社会科・公民科教育法 1 第2回

社会科基礎論(1)

5分間の1対1模擬授業の実施と振り返り（生徒の目線に立ってみる）

今日の授業の目的共有

1. 授業を実践することよりも、実践したことを振り返ることの重要性を実感すること。
2. 模擬授業を実演してみても、受けてみて、感じたことを素朴に話してみる。

今日の授業の目次

- ・自己紹介タイム
- ・振り返りジャーナルの記入

【授業】

1. フックトーク(15分)
2. ペア決めと模擬授業の準備
3. ペアでの模擬授業の実施(5分×2回)
4. 模擬授業のペアでの振り返り(5分×2回)
5. 全体での振り返りとまとめの解説

振り返りジャーナルの時間

振り返りジャーナルについて

1人一冊配ります。

表紙に

•「**振り返りジャーナル**」

•「**学籍番号**」

•「**名前**」

「**履修するクラス(曜日・時限)**」

をマジックで書いてください。

本の表紙
(授業時のみ)

岩瀬・ちよん(2017)『「振り返り」ジャーナル』

ブックトーク(15分間)

1. ブックトークの順番を決める
(クジ引き)
2. 斉藤の本紹介(1分)
3. 残りの時間は自由に読書してください。
4. 期限までに感想レポートを提出してください(200字とオススメ本)
5. 「ブックトークの情報共有ネットワークの構築」を配ります。

今日の斉藤の一冊

本の表紙
(授業時のみ)

上田信行(2009)『フレイフル・シンキング』

授業やいます

この授業の目指すコンセプト

1. 学びの「遊び感」を大切にする。
2. 学びの目的意識(≒納得感)を共有することを大切にする。
3. まだ知らない自分自身を再発見し続ける。振り返る。
4. 他者から学ぶ(チームを組む)×リットを実感する。

自分でも気を付けます。

今日の授業の目的の共有

今日の「振り返りジャーナル」の テーマ発表

「今日の授業のふいかえいを踏まえて、
次の模擬授業に向けての今のあなたの
考えを明確に述べて下さい。」

※来週までの課題にします。

模擬授業の準備

1. クジ引きをして、続き番号(1と2、3と4など)になった人が模擬授業のペアです。
2. 教室に均等に分かれて、授業ができる机の体制を作ってください。
3. ペアで番号の若い人が先に模擬授業をします。
4. 授業者役は立って授業をし、生徒役は席に座ること。
5. 授業者はカンペなどは一切持たないこと。
6. 生徒役は、可能な範囲で、中学生らしく振る舞うこと。同時に自分の感情の変化も意識すること(生徒役の感情の変化も重要な情報です)。

模擬授業の実施 1回目

(5分間は教師役を
貫き通すこと)

ペアで振り返る(1回目)

生徒役と教師役の振り返りを15分ずつで順番に行います。

1. 5分で「授業研究を深める「9つの質問」」の枠に入る付箋を書いてもらいます(1枠につき2つくらい)。
2. 5分経ったら、付箋を貼います。(付箋は絶えず書き直してもOK)。
3. 残り10分でお互いの気持ちや感じたことを説明しあい、「お互いの認識のずれはどこか?」「なぜそうなったのか?」を話し合います。

ペアで振り返る

授業研究を深める「9つの質問」

実践の文脈・・・・・・・・		
教師（ ）		生徒（ ）
教師は何をしたかったのか？	Want (望む)	子どもは何をしたかったのか？
教師は何をしたのか？	Do (する)	子どもは何をしたのか？
教師は何を考えていたのか？	Think (考える)	子どもは何を考えたのか？
教師はどう感じていたのか？	Feel (感じる)	子どもはどう感じていたのか？

模擬授業の実施 2回目

(5分間は教師役を
貫き通すこと)

ペアで振り返る(2回目)

生徒役と教師役の振り返りを15分ずつで順番に行います。

1. 5分で「授業研究を深める「9つの質問」」の枠に入る付箋を書いてもらいます(1枠につき2つくらい)。
2. 5分経ったら、付箋を貼います。(付箋は絶えず書き直してもOK)。
3. 残り10分でお互いの気持ちや感じたことを説明しあい、「お互いの認識のずれはどこか?」「なぜそうなったのか?」を話し合います。

ペアで振り返る

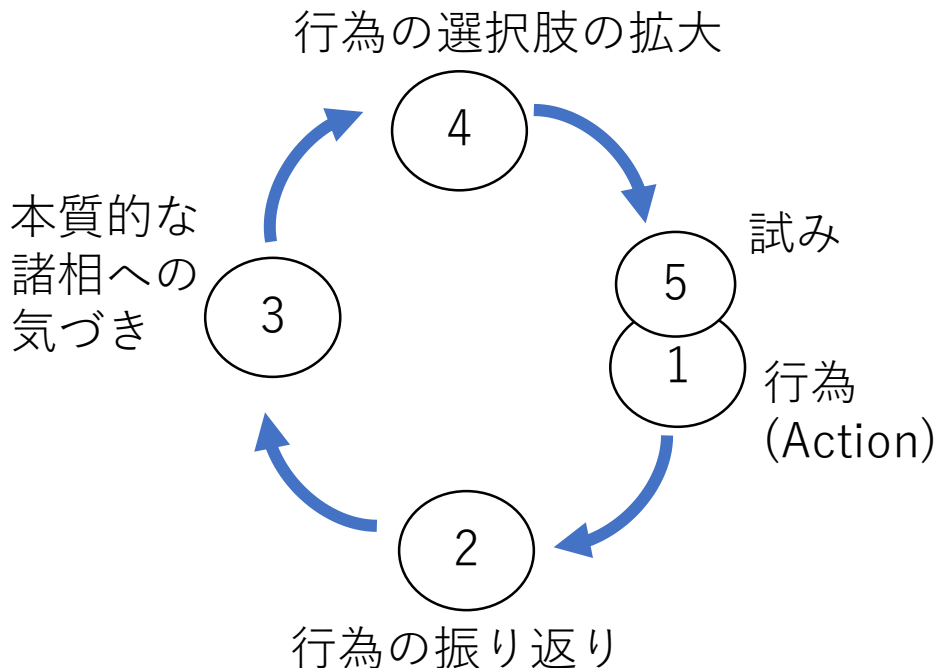
授業研究を深める「9つの質問」

実践の文脈・・・・・・・・		
教師（ ）		生徒（ ）
教師は何をしたかったのか？	Want (望む)	子どもは何をしたかったのか？
教師は何をしたのか？	Do (する)	子どもは何をしたのか？
教師は何を考えていたのか？	Think (考える)	子どもは何を考えたのか？
教師はどう感じていたのか？	Feel (感じる)	子どもはどう感じていたのか？

振り返りを深めるということ

「振り返り」は、「単なる反省会」でも「単に褒め合う会」であってはいけない。

コルトハーヘンのALACTモデル



・振り返りを通して、自分の価値観やこだわりが浮き彫りになること(批判的な自己省察)

・外発的ではなく、内側から気づきを得られること。

・次に繋がる視点を具体的に獲得すること

「振り返りジャーナル」の時間

今日のテーマ

**「今日の授業のふいかえいを踏まえて、
次の授業に向けての今のあなたの
考えを明確に述べて下さい。」**

**今日の振り返りも含めて、来週までに
2ページ分書いてきてください。**

今回参考にした主な本の紹介

渡辺貴裕(2019)

『授業作りの考え方—小学校の模擬授業とリフレクションで学ぶ—』

本の表紙
(授業時のみ)

F・コルトハーヘン著：武田信子他訳(2010)『教師教育学—理論と実践をつなぐリアリティック・アプローチ—』

本の表紙
(授業時のみ)

授業研究を深める「9つの質問」

実践の文脈・・・・・・・・

教師（ ）

生徒（ ）

Want

Do

Think

Feel

授業研究を深める「9つの質問」

実践の文脈・・・・・・・・		
教師（ ）		生徒（ ）
教師は何をしたかったのか？	Want (望む)	子どもは何をしたかったのか？
教師は何をしたのか？	Do (する)	子どもは何をしたのか？
教師は何を考えていたのか？	Think (考える)	子どもは何を考えていたのか？
教師はどう感じていたのか？	Feel (感じる)	子どもはどう感じていたのか？

1. 紹介する本

上田信行(2009) 『プレイフル・シンキング——仕事を楽しくする思考法——』 宣伝会議。

2. 報告者

斎藤仁一郎・課程資格教育センター教職研究室

3. 本の要約（300字程度）

「働くことを学びの視点から捉える」ことこそ、本書の試みです。私たちは学校だけでなく、職場においても日々学び、成長していることを本書は教えてくれます。その際にこれからの時代には学ぶ力として何が必要なのか。本書は、プレイフルな状態、すなわち人がワクワクしながら、物事に夢中になる時には、多少の困難があってもポジティブに乗り越えようとするエネルギーが出てくるのであり、そういったプレイフルな状態を創り出せる力が大切だと主張しています。

そこで本書ではプレイフルになるための方法として、自分自身で目標設定をすることや、自分自身の状況をメタ認知すること、まずやってみること、アウトプットし他者と交流・協働することなど、様々なヒントを提示しています。

本書は、「いかにすれば、自分が成長し続けられる」という実感を持ちながら学び続けられるかについての多くの視点が豊富に盛り込まれた本です。

4. 本の感想（400字程度）

学び、学習というと、ともすると私たちは学校で机に向かってするものだと捉えがちになります。それに対して本書は、働くこと、更には、人生全てが学びのプロセスであると実感させてくれます。

「プレイフル」に楽しみながら学ぼう、この言葉だけを聞くと何だかおちゃらけた雰囲気もしますが、本書で主張されているのは、困難な課題や高いハードルを前にして、自分自身のモチベーションを高めたり、前向きに生きていくにはどうすべきか。そういうことなのだと思います。そう考えると「ワクワクする」という言葉を大人が使っても恥ずかしくない気がします。

本書では、「成長的知能観」という、自分自身が成長し続けられると信じる知能観が大切だと主張していますが、実は、この知能観を持つこと自体が現実にはとても難しいことだと思います。でも、だからこそ、難しいことだからこそ、ワクワクして楽しまないと乗り越えられない。確かに成果としての結果も重要だが、それ以上にプロセスが重要。そして、結果的にプロセスを楽しめれば結果もついてくる可能性も高まるし、何より前向きでいられる。「いかに自律的に学び続けるか」という問いとも繋がってくると思います。認知心理学的な根拠に基づきつつ、著者自身がワクワクしながら本書を書いていることが伝わってきて、読んでいてとても楽しかったです。

5. 本の表紙

本の表紙
(授業時のみ)